

忘れてはいけない美しい日本の言葉

2019.04.15

今年の桜は寒さの戻りもあったせいか、例年以上に長く開花を楽しむことができました。

関西の桜名所では散り始めのところも多いようですが、一番遅く開花するといわれる任和寺ではやっと御室桜が5分咲きになったと報道されていました。

花にまつわる表現は日本語では大変多彩であり、とりわけ花の終わりについての日本語の表現の豊かさには目を見張る思いがします。日本語の表現の豊かさを示していると言えますが、だれが決めたのかについての説明はどこにもないのでわかりませんが、リテラシーというか、日本の文化として位置づけておきたいように思います。同じ散るにも微妙な違いがあり、さりげなくこのような表現の使い分けができるのであれば、心豊かになるような気がします。俳句や短歌を趣味としている人たちならば、日常的にこのような感覚の中で生活をしているのかもしれませんが、そうでない私にも一服の清涼剤になってくれるとだけ言っておきましょう。

サクラ(桜) 散る



ツバキ(椿) 落ちる



ボタン(牡丹) くずれる



アサガオ(朝顔) しばむ



ハギ(萩) こぼれる



アジサイ(紫陽花) 枯れる



ウメ(梅) こぼれる



キク(菊) 舞う



ユキヤナギ(雪柳) 吹雪く



参考:石原裕次郎の歌で「花の散り際」という曲が昔
ヒットしたことがありました。

以上